「記・紀」により，封印された邪馬台国と葬られた出雲の国が，今蘇える

全④-4

社会医療法人 緑泉会米盛病院
「邪馬台国 in 南九州」を探究する会 会長
濵田 博文

▶プロローグ

本稿（全④-1，2，3，4）はロマンや夢，ファンタジーを求めて書いたものではありません。末尾記載の「記・紀」以前の文献・資料から「記・紀」の洗礼を受けなかった史実（と考えられる）事のみを抽出して「記・紀」の改竄・粉飾を洗い流し，その神話時代と同時代に書かれた中国の歴史書「魏志倭人伝」と擦り合わせて，出来るだけ日本古代の史実に迫ろうとしたものです。また，本稿に出てくる地名・遺跡などは，中国は別にして，ほとんど全部，飛行機，電車，車，自分の足を使って，自分の眼で見て来たことを付記します。

「魏志倭人伝」，以下，「倭人伝」と略。
【　】は「倭人伝」の読み下し文。
（　）は著者の注記。

19. 大和王権と日向王権の大同団結

「邪馬台国」に限らず，どの国々でも，**大和**を制するものが倭国（日本）を制する，という観念は以前からあった。幸い，邪馬台国の中興の祖は**素戔嗚**（スサノオ）で出雲系。元を正せば出雲も日向も同じモンゴロイドで末子相続である。

日向では日霊女（ヒミコ）女王を中心に，**大和**との大同団結が図られた。日向の相続人は，今は日霊女女王の末子・**烏萱草葺不合尊**（ウガヤフキアエズノミコト）のそのまた末子相続人の**磐礼彦**（イワレヒコ）（既婚で一人娘がいた；後述の台与）である。

大和は，今は**宇摩志麻治**（ウマシマチ）が政務代行を行っているが，相続人は出雲系の**饒速日大王**（ニギハヤヒダイオウ）の末子・**伊助依姫**（イスケヨリ）であり，25歳ぐらいに成長していた。

この日向と大和の相続人同士が結婚することにより，**倭国**（日本）を統合する，という壮大な計画が図られたが，両方とも出雲の血を引くという事が幸いして，双方から根回しが行われた。

そして，双方の合意が成立して，**日霊女女王**が孫の磐礼彦を伊助依姫の養子として大和に送り（**大和東遷**），大王として即位したのは，**辛酉241年（大和王朝建国）**。この時，日霊女女王は87歳と推定。

20. 狗奴国と熊襲

さて，琉球民族の**狗奴国**は，BC50年頃から船で肥後の球磨川沿いに移住してきて，八代・人吉盆地を中心に飛び地を形成していた。琉球の本国の王に**狗古智卑狗**（クコチヒコ）がいて，移住地の王・**卑弥弓呼**（ヒミコ）もいる。移住開始から300年も経ち，飛び地の狗奴国はほとんど独立していたようだ。

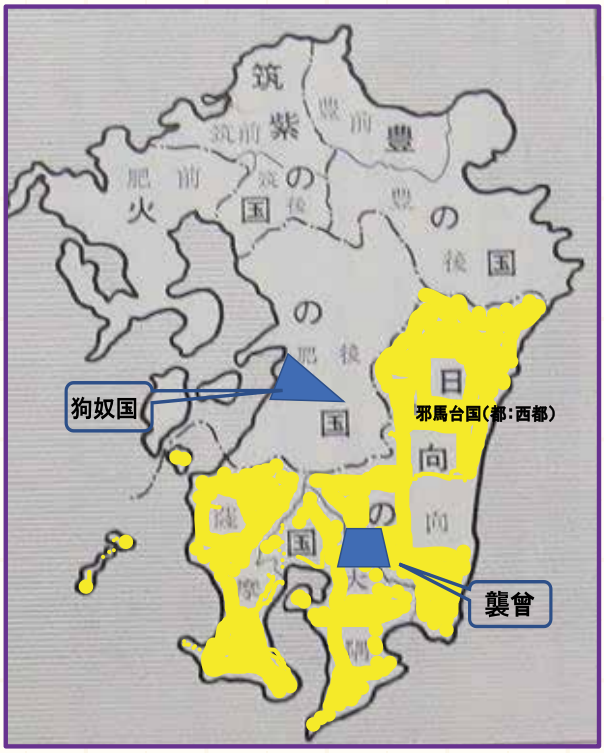
後の景行天皇の時には討伐を受け，また垂仁天皇・神功皇后の**熊襲**（クマソ）（球磨襲）征伐の時は，参謀・武内宿祢の息子は戦死，仲哀天皇は負傷し，それがもとで薨去された，というように武闘的要素が強かったようである。

なお，**球磨**（クマ）**（熊）襲**（ソ）とは，球磨（狗奴）国と大隅半島のつけ根あたりに跋扈していた同じ琉球族の**襲於**（ソオ）が合わさった言葉とも言われるが判然とはしない。平城京以降は**隼人**と呼ばれ，時に一部の隼人（大隅旅人）が大和政権に反抗する（大友旅人が大和朝廷の征隼人大将軍となり平定する）が，徐々に融和していったようである。

「**倭人伝**」【其の八（247）年，倭の女王

卑弥呼，狗奴国の男王，卑弥弓呼と素より和せず（飛び地の狗奴国が攻撃してきた）】（図 25）。

球磨川上流を遡り，西米良を登って下れば，邪馬台国の都・**西都**の裏側に行き着く。邪馬台国側は，守りの弱点の背後からふいを突かれ，慌てたかもしれない。また狗奴国と同じ琉球民族という説もある襲於との連携もあったかもしれない。そうなれば邪馬台国の北方軍（日霊女女王の長兄；**忍穂耳尊**）や薩摩軍（第三子；**瓊瓊杵尊**）・大隅軍（第五子；**烏萱草葺不合尊**）の援軍も来ただろう。しかし戦闘は膠着状態で終息したようである。



（図 25）球磨（琉球）国の飛び地；狗奴国と奄美の飛び地との説もある；襲曾（いずれも琉球族）

魏国は辺境長官・張政に皇帝の激励の詔書と黄色の軍旗（皇帝の証）を持たしたが，張政が着いてすぐ，戦争の最中に日霊女女王は逝去した。「**倭人伝**」【卑弥呼，以て死す（そして卑弥呼は死んだ）】。（戦死か病死か老衰かは記載がない）。卑弥呼女王が亡くなったのは **247** 年頃，93 ～ 94 歳であった。邪馬台国，約 30 年間の統治であった。

「**倭人伝**」【大いなる冢（塚）を作る。径百余歩，殉葬する者，奴婢百余人】。

この時，偶々魏国の使者，張政が邪馬台国の都，西都に皇帝の激励を伝えに来ていて，この記録が「倭人伝」に残った。

21. 日霊女女王の墓陵

日霊女女王の墓陵は，**西都原古墳群**の，通称**男狭穂塚**で，全長 219 m の帆立貝型前方後円墳で，底辺の直径は 128 m ある（図 26）。

（図 26）日霊女女王の墳墓とされる，通称・男狭穂塚と地下式横穴墓

これだけの大古墳は九州中探してもここしかない。今の南宮崎から小林・えびのに分布する特有の**地下式横穴墓**が，その周辺に数基ある。これが殉葬者の墓という研究者（土田章夫）もいるが，発掘が進んでいないので良くわからない。

日霊女女王は，日本の歴史上，胆力と知恵のある大女王であった。大和王朝の神武天皇の祖母で，即位の根回しをしたのも日霊女女王の政略であり，いわば**皇祖**に当たる。現在，伊勢の**皇大神宮（内宮）**に祀られて，通称を「**天照大神**」（本名：**大日霊女貴尊**）と称する（図 27）。

22. 日霊女神社と大日霊女神社

ところで，専門家の間ですら，『日本に

は神社は多いが卑弥呼神社はない。「卑弥呼の邪馬台国」なんて幻影だ。あるいは,「魏志倭人伝」自体が信用できない歴史書だ』,という意見が聞かれる。

（図 27）皇大神宮（内宮）正殿

しかし日本書紀には,『**天照大神**別名,**大日霊女貴神**』と記録されている。そして,「記・紀」全体に渡り,『**天照大神（太陽神）は大日霊女貴**』と書かれている。

鷲崎氏も憤慨して,『日本書紀』神代編（本文）で天照大神の誕生について,『**伊弉諾尊**と**伊弉冉尊**は,「吾すでに**大八洲**（日本列島）国および山川草木を生めり。何ぞ天下の主者を生まざらむ」と共議して,共に**日神（太陽神）**を生む。これを**大日霊貴**と号す』。以上から,天照大神の本名は,「大日霊女貴尊」である。後世,なまって「**大日霊女貴**」と呼ばれることもある,と書いている。

また,多くの神社の古文書で,天武天皇（「記・紀」編纂）以前は大日霊女貴尊と記録されていたのが,天武天皇以後は天照大神と書かれるようになった。天武天皇と「記・紀」編纂者らの意図が垣間見てとれる。

Wikipedia の「日本の神一覧」を引いて,各県毎の神社庁の発表をみれば,「**大日霊女神社**」という神社名で祭神を「**天照大御神**」または「**天照皇大神**」としている神社が,少なくとも各県に 1 ～ 2 社はある。

鹿児島県神社庁の発表によれば,①**開聞神社（薩摩一の宮）**,②指宿神社,③一の宮神社（鹿児島市郡元町。但し③の一の宮は通常の一の宮ではなく,一の宮姫にあやかった神社名である）が,祭神はすべて天照大神である。このように,魏国の蔑視名である卑弥呼を冠した神社はないけれど,れっきとした「（大）日霊女神社」は,日本国中,至る所に存在する。

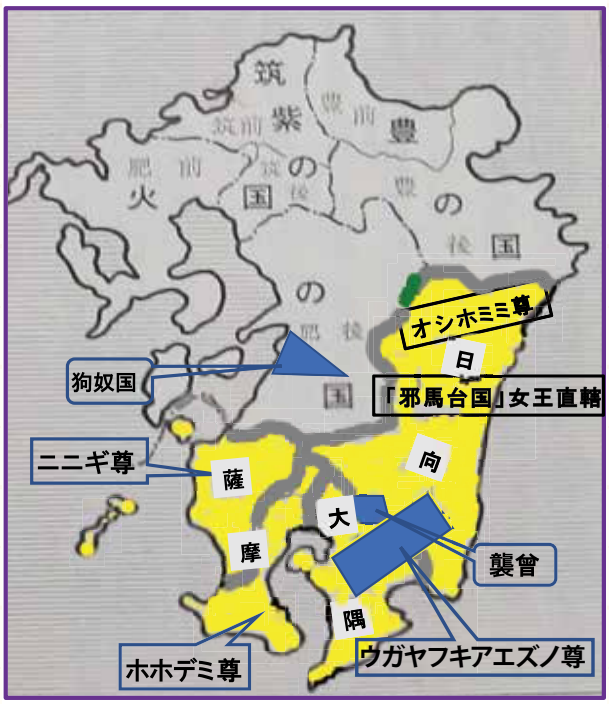
特に,**開聞神社**（薩摩一の宮;図 28）には,大日霊女貴尊とその**五男三女**が勢ぞろいして祀られている。

（図 28）開聞神社（薩摩の一宮）:大日霊女貴尊とその子供・合計 8 神の勢ぞろい

どういう事かと言うと,まず日霊女が素戔嗚と出会う前に二人の男子（長男は忍穂耳尊＝邪馬台国北部を統治）があり,出会ってから三人の娘を儲け（すなわち,後の 3 女神＝多岐理姫,多岐津姫,佐依姫または市杵嶋姫・厳島姫),さらに素戔嗚以後の愛人兼側近と儲けた 3 貴子と言われる**瓊瓊杵尊**,**火火出見尊**,**烏萱草葺不合尊**の合計 8 名（8 神）である。

大日霊女女王が,日向の国を 3 分割して統治させていた時（これも「記・紀」ではまったく異なった神話で述べられている）が,邪馬台国の最盛期だったのかもしれない（図 29)。

なお九州を俯瞰すれば,「**倭人伝**」の【水行二十日,水行十日,陸行一月】,と大雑把と言われるような書きぶりにならざるを得なかったのも分からなくはない。



（図 29）大日霊女女王の 3 貴子による邪馬台国の分割統治
（但し，日向北部は長男・忍穂耳尊＜オシホミミノミコト＞が既に統治）

23. 台与（トヨ）女王の誕生

「**倭人伝**」曰く，（卑弥呼の死後）【更に男王を立てしも，国中服さず，更（こもごも）相誅殺し，千余人を殺す。復た卑弥呼の**宗女の台与**（トヨ），年十三なるを立てて王と為し，国中遂に定まる】。

卑弥呼女王の亡き後，一族同士の相続争いでも起きたのか，または隣国が介入して戦いになったか，どっちにしろ，卑弥呼女王の相続人（孫）の磐礼彦が大和東遷の時，日向（**油津**）に置いて行った**吾平津姫**（アイラツヒメ）との間に儲けた一人娘・**台与**が十三歳に成長していた。血統は，やはり強かったのである。

「**倭人伝**」；（**台与女王**は）【張政の還るを送らしむ。因って洛陽に詣り，男女生口三十人を献上し，白玉五十孔青玉（まがたま）二枚・異文（変わった模様）二十四匹を貢（こう）す】。

ここで，「倭人伝」の全文は終わる。

ところが，「**晋書**」（唐；648 年）に，台与女王は **266 年**，晋の皇帝に使いを送った事が記録されている。だから邪馬台国は滅亡したのではなく，穏やかな時代が続いた（大和政権の後ろ盾もあった）と思われる。

295 年，大和朝廷の初代南九州鎮守使となった神武天皇の孫，**武磐竜彦**（タケイワタツヒコ）が邪馬台国の政権を受け継ぎ（台与女王；約 50 年間の統治），磐礼彦（後の神武天皇）の宮崎での滞在跡に**宮崎神宮**を建立。邪馬台国は歴史の表舞台から消える。

さらに武磐竜彦は阿蘇の外輪山の原野の開墾を地元住民に指導して感謝され，**阿蘇神社**の祭神として祀られている。

24. 男狭塚と並ぶ女穂塚（図30）

男狭穂塚の隣の大前方後円墳は，台与女王（豊受姫）の陵墓で，通称，**女狭穂**（メサホ）塚と呼ばれ，大和政権によって**皇大神宮の外宮**に祀られている。

（図 30）男狭穂塚（帆立貝型古墳）と並ぶ女狭穂塚古墳（前方後円墳）；西都市観光協会

25. 邪馬台国4代120年間

❶**素戔嗚尊**（日本建国の祖，約 8 年間）
❷**大国主尊**（約 30 年間）
＜❶，❷は出雲系：「記・紀」により悪役的神話化して，葬られた出雲王朝＞
❸**大日霊女女王**（日本皇祖，約 30 年間）
❹**台与女王**（約 50 年間）
＜❸，❹は天孫族＝日向系。「記・紀」により，出雲と血縁が深いので封印された邪馬台国。代わりに皇大神宮を創建して祀っ

た（内宮と外宮）。故に持統天皇以降，近世になるまで天皇の参詣は行われなかった。

しかし中国の公的歴史書「倭人伝」と「晋書」および日本の「記・紀」以前の古文書には記録が残った。

26. 西都原古墳群

二大古墳を中心に，西都原古墳群（図31）は前方後円墳だけでも，大小350基を超え，近隣の川南・持田・新田原・茶臼山・本庄・生目古墳群（宮崎中央平野）の古墳を合計すれば，実に1，600基以上に上る。九州一の大古墳群で，その種類といい・数といい畿内と肩を並べる。誠に素晴らしい邪馬台国の夢の跡である。

（図31）春の西都原古墳群＝邪馬台国の夢の跡（西都市観光協会）

27.「記・紀」による改竄と邪馬台国封印

なぜ，「記・紀」において，出雲系の素戔嗚とその第五子・饒速日尊（天照国照大神）は悪役神話に改竄され，葬られたのか？

さらになぜ，「倭人伝と卑弥呼」の存在を封印してまで，日本の最初の歴史書「記・紀」を塗り替えたのか？

「記・紀」編纂者らは，当時の指導者（天武天皇，持統天皇，その背後の藤原不比等）の国創り（天皇親政の律令国家）の強い意志を受けて，天皇の出自を創作神話にして，神に繋がる天孫一系に造作した。それは，今後どんなに有能な人物が現れようと，天皇は天孫の血を引く者でないとなる事ができない事を意味する。故に，天皇は一系（願わくば万世）である事を日本初の歴史書に確定した。

大和の初代王は素戔嗚尊の息子・**饒速日**（**天照国照大神**＝出雲系）であり，磐礼彦（日向系）は饒速日尊の相続人・伊須気依姫の養子として大和に入り（**大和東遷**），出雲と日向を統一して大和王朝を創建した（**神武天皇即位**）。ところが「倭人伝」の「邪馬台国と卑弥呼」も，出雲と深い婚姻（血族）関係にあり，天孫一系と矛盾するので，「記・紀」から封印された。

※ところで，**邪馬台**（国）の読み方は，果たしてヤマタイかヤマトか？

江戸幕府お抱えの大博識者と言われた新井白石（の，実は日中通詞の発音）が，ヤマタイと読み始めると，右へ倣えみたいに，皆がこぞってヤマタイと読み始めて，その後現在まで続いている。

ところが「日本書紀」に，「**興台産霊（コゴトムスヒ），許語等武須玺（コゴトムスヒ）**」のように，台が等と同じ「ト」と読まれている。さらに良く調べたら，新井白石の以前の国文学者らも「ト」と読んでいたけれど，新井白石の名前に雲散霧消した事が分かった。後のヤマト王朝との整合性も考慮すれば，ヤマトと読むべきではないか（中西進，原田常治，井沢元彦，他）。

▶エピローグ：日本列島人とその心（精神）

日本列島人は，長く森とその再生を守ってきた縄文時代に続いて，弥生時代には水田稲作と太陽信仰を維持し，漁労で蛋白質・ミネラルを摂取してきて，「再生」と「循環」を，自然と共生しながら構築してきた。

弥生時代から古墳時代に入る頃，畑作牧畜民の「力と闘争」（騎馬）文明も入ってきたが，人数が少なく継続性もなく，在来の倭人文化に融和されていった。

倭人は必要な文明（文字，律令制，仏教，国史編纂，他）は取り入れ，さらに独自に発展させ（万葉仮名，かな，カナ，古今・新古今和歌集，木造伽藍，前方後円墳，他），他方，感性に合わないもの（家畜の去勢➡宦官制度など）は取り入れなかった。このように独特な「**美と慈悲の文化（精神・心）**」を持って**サステナブル（持続可能）な社会**を創り上げてきたのである。

その結果，外国人からは，次のようにみられるようになった。

1549年11月鹿児島で書かれた**ザビエルの書簡**：「日本人より優れている人びとは異教徒の間では見つけられないでしょう。彼らは親しみやすく，一般に善良で悪意がありません。大部分の人びとは貧しいのですが，貧しい事を不名誉と思っていません（以下，略）：鹿児島県の歴史，鹿児島県中学校社会科教育研究会編，2018）。（**完**）

文献　日高正晴：古代日向の国、日本放送出版協会、1993
原田常治：記紀以前の資料による古代日本正史、同志社、1978
梅原　猛：葬られた王朝、新潮社、2010
山科　威：日本書紀・古事記編纂関係者に抹消された邪馬台国、諷詠社、2014
安田喜憲：古代日本のルーツ　長江文明の謎、青春出版社、2008
馬場悠男（監）、島田栄昭（著）：「古人類」の謎學、青春出版、1998
野上道男：魏志倭人伝・卑弥呼・日本書紀をつなぐ糸、古今書院、2012
豊田有恒：歴史から消された邪馬台国の謎、青春出版社、2005
橋口　学：完読「魏志倭人伝」、高城書房、2010
産経新聞取材班：神武天皇はたしかに存在した、産経新聞出版、2013
宮崎正弘：神武天皇「以前」、育鵬者、2019
高向嘉昭：鹿児島ふるさとの神社伝説、南方新社、2012　　他、割愛
さらに、原田常治氏が渉猟された古文書などは、以下の通り。
神社縁起、帝王編年記、石和聞見志書紀通証、続日本紀、皇年代略記、延喜式神名帖、古今皇代図、続国史略、史料通信叢誌、旧事記、熊野略記、文徳実録、旧事天神本紀、後漢書、梁書、魏志倭人伝、国華万葉記、和漢三方図会、万葉集、各地の古墳の発掘報告書、各国風土記（逸文）、阿蘇郡誌、古事類苑、神祇部。
「古事記」以前に建立され、渉猟しえた1631神社の膨大な資料や系図。
他の多数の古文書は割愛。

本稿（全④-1, 2, 3, 4）は，著者が鹿児島史談会：2022年11月例会で，行った講演を，一部改変・編集し直したものです。

お知らせ

『随筆・その他』原稿募集

「鹿児島市医報」では、「随筆・その他」コーナーを設けてあります。
身近に起こった珍しい出来事や、貴重な体験談など、何でも自由にご投稿ください。

※詳細は本紙記載の「鹿児島市医報」投稿規程をご参照ください。
◇原稿は郵送・メール等にて下記宛にお送りください◇

〒892-0846　鹿児島市加治屋町3番10号
鹿児島市医師会『鹿児島市医報』編集係
TEL：099-226-3737／FAX：099-225-6099
E-mail：ihou@city.kagoshima.med.or.jp